

第104回 全国大学獣医学関係者協議会 議事録

日時：平成28年（2016年）3月29日（火）13～15時30分

場所：東京大学農学部3号館4階会議室

東京都文京区弥生1-1-1

出席者（敬称略）：

（会長）尾崎 博

（副会長）杉谷博士

（北大）稲葉 睦、昆 泰寛、滝口満喜、大橋和彦、坪田敏男、石塚真由美

（帯広畜産大学）倉園久生、古岡秀文、石井利明、大石明広、猪熊 壽、山岸則夫

（岩手大学）御領政信、鎌田洋一、山崎真大

（東京大学）前多敬一郎、桑原正貴、中山裕之、久和 茂、西村亮平、杉浦勝明

（東京農工大学）渡辺 元、渋谷 淳、竹原一明、田中知己、福島隆治

（岐阜大学）北川 均、石黒直隆、杉山 誠、海野年弘、鈴木正嗣

（鳥取大学）菱沼 貢、澁谷 泉、岡本芳晴、日笠喜朗、村瀬敏之

（山口大学）佐藤晃一、奥田 優

（宮崎大学）片本 宏、保田昌宏、野中成晃

（鹿児島大学）宮本 篤、三角一浩、三好宣彰

（大阪府立大学）竹内正吉、山手丈至、笹井和美、嶋田照雅

（酪農学園大学）谷山弘行、竹花一成、及川 伸、伊藤真美

（北里大学）高井伸二、宝達 勉、小山田敏文、佐藤久聡、上野俊治、岡野昇三

（日本大学）大矢裕治、丸山総一、中山智宏、北川勝人、森友忠昭

（麻布大学）浅利昌男、土屋 亮、村上 賢、山下 匡

（日本獣医生命科学大学）池本卯典、河上栄一、小山秀一、左向敏紀、新井敏郎、田崎弘之、和田新平、藤田道郎、益小原誠

（特別出席）

文部科学省 高等教育局 課長 北山浩士、課長補佐 辻 直人、科学・技術教育係 草田善之

日本獣医師会 専務理事 境 政人

（事務局）

（東京大学）望月 学、堀 正敏

（NPO法人獣医学教育支援機構）伊藤勝昭、伊藤茂男、中村利子

以上87名

尾崎会長の開会宣言のあと、文部科学省高等教育局課長・北山浩士氏と日本獣医師会専務理事・境政人氏から来賓のご挨拶があった。

ついでNPO獣医学教育支援機構の中村から配布資料の確認が行われた。

さらに、第103回全国大学獣医学関係代表者協議会議事録が承認された。

(1) 報告事項

1) 79回国公立大学獣医学協議会報告（北大・稲葉）

以下の3点について協議したとの報告があった。

a) 各大学の現況報告：岩手、農工大は共同大学院の準備を進めている。宮崎大は学生募集に関して地域産業枠を活用したい。

大阪府立大と大阪市立大の統合がすすめられる予定、統合時には獣医学定員60名としたい。

b) CBT・OSCE準備状況：各校において粛々と進められている。

c) 国際通用性・共同教育等評価WGから：大学基準協会からのパブリックコメントへ対応（3月31日まで）については、各大学で各個に対応することとし、国公立協議会での取りまとめはしない。

2) 私立獣医科大学協会協議会報告（酪農大・谷山）

以下、報告事項と審議事項について協議されたことが報告された。

a) 報告事項

奨学金制度（中央畜産会、農水）一昨年から3名に貸与

今治市の国家戦略特区について情報整理

第8次自己点検評価の報告

定期雑誌、獣医学振興第5号発行

大学基準協会のトライアル評価を日獣大にて実施

b) 審議事項

6月15日5大学にて総会

教育体制評価委員会（国際通用性について検討）

地域臨床教育センター（大学の枠を超えた教育について検討）

モデルコアカリについて私獣協内での検討委員会

私立大で獣医学教育学会を立ち上げることに検討

（尾崎会長から賛成の意、ぜひ全国規模で行って欲しい）

第9次自己点検評価を2年後に発行予定

獣医学振興第6号発行予定

3) P E A C E 質問状への回答

尾崎会長から、動物愛護団体P E A C Eからの質問状に対し、全国協議会尾崎会長名で回答した（H 2 7 . 1 2 . 1 1）ことが報告された（資料1－1）。

4) E A E V Eからの招待について。

E A E V E事務局から、日本の獣医科大学の総会への参加呼びかけがあることが紹介された。認証を受ける予定の国公立4大学は参加予定であることが報告された。

（2）協議事項

1) 獣医学教育評価について

大学基準協会・獣医学教育試行評価委員会委員長（東大・中山）よりこれまでの経過と今後の予定について報告が行われた。

- ・ 獣医学教育試行評価実施計画書に従って東大に対する試行評価（資料2－1から2－10）および日獣大に対する試行評価（資料3－1から3－9）がおこなわれ、結果・総評・概評・提言が示された。
- ・ 獣医学教育に関する基準（改定案）（資料4－1）については、現在パブコメ募集中（3月末日まで）である。
- ・ その結果を受けて5月23日大学基準協会理事会で最終承認の予定である。
- ・ 2017年度に本評価開始予定、まずは2大学で実施したいが、全国協議会で調整をお願いしたい。

この報告について当協議会でのこれまでの議論を踏まえ様々な意見が出されたが、会長、副会長で相談し、3月末日で締め切られるパブコメならびに稲葉WGの意見書に対する基準協会の対応を見て、次回以降の協議会で今後の方針を協議してはどうかとの提案がなされ、了承された。

2) 共通テキスト編集委員会報告

- ・ 北大・昆から資料の5－1、2、3を用いて現状が報告された。平成27年8月までに29冊のテキストが刊行され、現在11冊のテキストが編集作業中である。
- ・ 尾崎会長から、共通テキストの印税は支援機構の大きな資金源になっている。著者が受け取る印税の10%を支援機構の経費に提出していただきたいとお願いしているが、まだ一部の書籍でしかその様になされていない。この輪を広げて欲しいとの発現がなされた。また電子図書への移行を強く推進したいとの希望も示された。

3) コアカリキュラム検討委員会報告

- ・ 山口大・佐藤から、現状のコアカリ検討委員会および小委員会という体制（名称）を変更し、コアカリ検討委員会およびコアカリ連絡会議を新規設立したいという提案があった（資料6-1、資料32）。2つの委員会の位置づけ、作業内容、選出方法などについて説明された。

4) 動物診療施設委員会報告

- ・ 東大・西村から資料8-1をもちいて、全国16大学の動物診療施設の診療頭数について説明が行われた。

5) 参加型臨床実習検討委員会報告

- ・ 尾崎会長から、前回会議でこの委員会の設立が会長から提案され、麻布大・土屋に委員長を依頼して本委員会が立ち上がったことが説明された。
- ・ 麻布大・土屋より資料9-1で委員会のリストが示された（委員長 麻布大・土屋、副委員長 日獣大・小山、岩手大・高橋、岐阜大・森）。
- ・ 資料9-2、3、4、5で基本方針等が示され、平成27年2月に16大学宛アンケートを実施したことが報告された。
- ・ 別添資料（各大学における外部機関との連携を前提とした参加型実習について調査結果）をもちいてアンケートの結果が説明された。
- ・ 委員長が土屋から小山（日獣大）に交代する。
- ・ 次回までに素案を提出したい。

6) 全国共同実習事業報告

- ・ 東大・杉浦から大学における公共獣医事教育推進委託事業「分野1 公衆衛生分野における全国実習システムの構築」の今年度の活動について報告された（資料11）。
- ・ 受講者数はH26年17名、H27年106名、H28年150名と増加していることが示された。
- ・ ついで岐阜大・北川から「分野2 畜産等分野における全国の実習システムの構築」の今年度の活動について報告された（資料12）。

NOSA I、中央畜産会が主催する実習と重複するため、混乱を招いている。一本化できないか？との質問があった。尾崎会長からすでに文科省に例えば支援機構が事業を受託できないかと打診中であるとの回答があった。

7) 広報委員会報告

山口大・佐藤から、かつてインターズーから定価1000円で販売されていたコアカリガイドラインが、WEB上で無償公開できるようになったことが報告された。

8) 獣医学教育国際化検討委員会報告

岐阜大・杉山から平成27年2月28日に第一回の委員会が開催され、委員会の使命、今後のスケジュールなどが協議されたことが報告された（資料13）。

9) 共用試験センター報告

本議事は時間の都合上、支援機構の総会で報告されることになった。

10) その他

資料31を用いて尾崎会長から、平成27年度の会計報告が行われた。

尾崎会長から全国協議会は法人化されておらずマイナンバー制度の導入に伴って会費納入や支出などに支障が出る可能性があり、今後対応を考慮しなくてはならないことが説明された。

最後の次回の開催日時と場所は、9月5日（月）13時（場所、東大3号館4階）となった。